

海外の専門家

早く世界遺産に登録されるといいにや

佐渡鉱山を視察



上相川(鉱山集落跡)の発掘成果を説明



佐渡奉行所跡の寄勝場で製錬体験



上町地区(鉱山町)を案内



吹上海岸石切場跡を案内

《佐渡鉱山を視察した2名の海外専門家》

ミシェル・コット氏(フランス) 世界遺産コンサルタント。専門は土木史・技術史・産業革命。世界各地の世界遺産登録に携わる。

バリー・ギャンブル氏(イギリス) 世界遺産コンサルタント。専門は産業考古学・地質学。「明治日本の産業革命遺産」等、産業遺産の世界遺産登録に尽力。

相川 あいかわらばん 瓦版

第24号

2016年11月25日発行

発行：佐渡市世界遺産推進課

電話 0259-63-5136

FAX 0259-63-6130

編集：佐渡市世界遺産推進課

新潟県教育庁文化行政課

世界遺産登録推進室

10月下旬、海外の専門家2名(ミシェル・コット氏、バリー・ギャンブル氏)が世界遺産候補である「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を視察しました。この視察の目的は、佐渡金銀山の世界遺産登録へむけて、推薦書をはじめ登録に必要な書類作成について専門家の助言を得るために、現地を実際にご覧いただくことでした。

2名の専門家は、世界各国の世界遺産登録業務に携わっており、視察では、推薦書案の内容に沿って現地を案内し、より効果的な遺産の説明方法や、保存・活用の方針について、助言をいただきました。

佐渡視察は4日間にわたり、西三川砂金山・鶴子銀山・相川金銀山の採掘場跡や関連する集落、建造物の保存状態を確認いただき、夜は課題などについて意見交換を重ね、海外の産業遺産の事例なども紹介していただきました。

専門家からは、「欧米の鉱山と違い、佐渡では鉱山と人々の暮らしの場が密接につながっている」、「相川上町は、江戸時代の町並みと、明治時代以降の鉱山社宅などの近代的な建物が、なじむように混在していることが社会の変遷を映し出しており興味深い」など、たくさん意見をいただきました。

特集 相川の狛犬



⑤北野神社(相川下戸村)
明治時代以前の名称は「弁天」。下戸村・下戸炭屋浜町の産土神



子獅子を連れて
いる狛犬には子
孫繁栄の意味が
あるといわれて
います。



⑥善知鳥神社(奥)(相川下戸村)
相川の総鎮守



⑬善知鳥神社(入口側)(相川下戸村)
善知鳥神社には3対の狛犬がある



⑪八幡宮(相川下山之神町)
初めは相川大間町に勧請



⑫熊野神社(相川下戸村)
羽茂の飯岡より当地へ勧請

江戸時代の最盛期には5万人近い人が暮らした鉾山町・相川。前号の「あいかわらばん」では、金銀山を目当てに日本各地から多くの人々が相川に集まるのと同時に他国の寺が相川に末寺を建てたり、佐渡の別な場所にあった寺が相川に移ったりして、一番多いときで相川市街地(下相川〜鹿伏)に147カ寺があったことを紹介しました。そうしたお寺は当時の相川の繁栄を物語っています。

また、相川市街地には数多くの神社が存在しますが、神社も寺と同様に鉾山町のにぎわいを示すもののひとつです。今回は、相川市街地の神社にある「狛犬」について、その分布を調べてみました。

狛犬を確認できた神社





①大山祇神社(相川下山之神町)
慶長10年、金銀山の繁栄と安泰を祈願するため
初代佐渡奉行・大久保長安が創建



②善知鳥神社(中央部)(相川下戸村)



③風宮神社(下相川)
風の神様として知られる



④百足山大権現(下相川)
明治時代以前の名称は「見上権現」



台座には
三菱マークが
刻まれています。



⑦塩竈神社(相川江戸沢町)
初めは塩屋町にあった



⑧金比羅神社(相川五郎左衛門町)
海上安全の神



⑨北野神社(相川大工町)
明治時代以前の名称は「天神」



⑩戸河神社(下相川)
慶長6年に当地に移る

番外編



大日堂(相川下戸村)
大日如来は牛供養の靈験がある
といわれ、境内の脇堂には牛の
像が置かれています

勝手に
狛犬ランキング

- 1位 北野神社
- 2位 大山祇神社
- 3位 善知鳥神社(入口側)

世界遺産推進課職員による、相川の狛犬総選挙を実施しました！
1位は北野神社の狛犬で、愛らしい子獅子の表情が魅力的という意見が多く、2位は丸みのあるフォルムが特徴的な大山祇神社の狛犬、3位は勇ましい表情の善知鳥神社(入口側)の狛犬でした。

「狛犬」とは、「一般的に神仏の守護獣として主に魔除けの意味をもつといわれています。狛犬の起源は、古代インドといわれ、仏様の両脇にライオンの像を置いたことに始まり、その後、中国を介して日本に伝わったとされています。現在は神社の入口付近でよく見かけますが、今回の調査では、相川市街地に13対の狛犬を確認できました。

狛犬については、築造年代と全体の構成や意匠には傾向がありそうなので、今後も調査を続けたいと思います。

関東稻荷と相川金銀山

相川の今昔



車道から見える104段の急勾配な石段

創建は元禄2年（1689）とされ、鉱山で働く人々が集住した間ノ山地区（佐渡金山第3駐車場周辺）の町々の氏神として信仰を集めた稻荷神社です。鳥越間歩という相川金銀山の江戸時代の坑区の金児（坑道を掘る職人）である関東弥右衛門が、夢枕に現れた翁のお告げによって大鉱脈を掘り当て、その恩に報いるために当社を創建したことから、「関東稻荷」と通称されるようになったそうです。

訂正とお詫び

「あいかわらばん23号」（9月23日発行）の「相川の今昔」の記事に誤りがありましたので訂正します。佐渡鉱山の施設名称を「佐渡鉱山本部鉱山事務所」と表記しましたがこれは誤りで、正しくは「佐渡鉱山本部事務所」です。また、写真①に見える建物は右側が鉱山本部事務所、左側は守衛室です。

12月 佐渡金銀山関連イベントの予定

イベント名	開催日時	会場	備考
世界遺産講演会 「世界遺産・軍艦島 炭鉱マンの足跡を五感に届ける」	12月1日(休) 18:30～20:00	アミューズメント佐渡 (佐渡市中原234-1)	・講師:杉本博司 (高島海上交通ガイド) ・参加費無料、事前申込不要

申込み先・問い合わせ窓口：佐渡を世界遺産にする会事務所(電話0259-52-0013)

第26号の予告

◆活動報告 ほか

次回1月25日
刊行予定



今月のにゃんじー

風邪気味のためお休み

冷え込みが厳しくなり、朝布団から出るのが辛い季節になりました。

今月のにゃんじーは風邪気味のため、お休みします。

皆さんも体調にはお気を付けください。